

令和7年5月7日

都道府県体操協会(連盟)会長 殿
ブロック体操協会事務局 殿
各ブロック代表者 殿

公益財団法人日本体操協会
専務理事 西村 賢二
審判委員長 櫻井里枝子
地域委員長 尾 寄 隆 之
国スポ担当 葛 西 玲 広

国民スポーツ大会〔体操〕各競技種別の適用ルールについて（通達）

平素より本会の諸事業に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、標記の件、国民体育大会〔体操〕実施要項には、適用ルールの具体的な記載はせず、当該年度の初めに別途、本会より適用ルールを都道府県協会・連盟に通達することとなっております。

ここに「国民スポーツ大会体操競技会、各競技種別適用ルール」を通達いたしますので、関係各所への伝達、周知を宜しくお願いいたします。
なお、各競技は新体操が9月6日(土)～7日(日)、トランポリンが9月9日(火)、体操競技が9月12日(金)～15日(月)に滋賀県大津市滋賀ダイハツアリーナ（滋賀アリーナ）にて開催されます。皆様のご協力をお願い申し上げます。

記

【第79回国民スポーツ大会／体操競技会の適用ルール】（実施要項 4項抜粋）

4 競技上の規程及び方法

(1) 公益財団法人日本体操協会制定の競技規則による。

(2) 体操競技の競技方法

成年男女及び少年男女ともに1チームの選手は5名とする。（5－5－4方式）

ア 成年（団体総合競技）

男子は、ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒の6種目の自由演技を行う。

成績順位は、6種目の各種目ベスト4の得点総合計によって決定する。

女子は、跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆかの4種目の自由演技を行う。

成績順位は、4種目の各種目ベスト4の得点総合計によって決定する。

なお、成年男女の詳細な適用ルールについては、別途、公益財団法人日本体操協会から都道府県協会に通達する。



- 成年男子は、「2025年版採点規則及び体操競技情報最新号」を適用する。
- 成年女子は、「2025年版採点規則・変更規則Ⅰ及び女子体操競技情報 最新号」を適用する。

イ 少年（団体総合競技）

男子は、ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒の6種目の自由演技による予選と決勝を行う。予選での6種目の各種目ベスト4の得点総合計により、上位18チームを選び、そのチームによって決勝を行う。成績順位は、決勝における6種目の各種目ベスト4の得点総合計によって決定する。

女子は、跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆかの4種目の自由演技による予選と決勝を行う。予選での4種目の各種目ベスト4の得点総合計により上位18チームを選び、そのチームによって決勝を行う。成績順位は、決勝における4種目の各種目ベスト4の得点総合計によって決定する。

なお、少年男女の詳細な適用ルールについては、別途、公益財団法人日本体操協会から都道府県協会に通達する。



- 少年男子は、「2025年版高等学校男子適用規則」を適用する。
- 少年女子は、「2025年版採点規則・変更規則Ⅰ及び女子体操競技情報 最新号」を適用する。

（注）予選において同点が生じた場合、競技規則に準じて決勝通過順位を決定する。

(3) 新体操の競技方法

適用ルールについては、別途、公益財団法人日本体操協会から都道府県協会に通達する。

- 少年男子は、「2025年版公財日本体操協会新体操男子採点規則および高体連適用規則」を採用する。タイブレーク決定方法は採点規則で指定されたものとする。

ア 少年男子

① 競技内容 団体競技 自由演技

個人競技（スティック、リング、ロープ、クラブ）

成績順位は、以下の合計得点によって決める。

団体競技の得点および個人競技の得点（4種目 4演技×1/4）の合計

② 団体競技について

都道府県ごとに団体を編成し、演技者は5名とする。

③個人競技

個人競技の演技者として、団体の中から4名だけが出場できる

- 少年女子は、「2025-2028 公財日本体操協会採点規則シニアルールと令和7年2月高体連適用ルール」を採用する。

ア 競技内容 団体競技（ボール3フープ2）

*当該年の全国高校総体で採用された種目と同一とする。

個人競技（フープ・ボール・クラブ・リボン）

成績順位は、以下の合計得点によって決める。

団体競技の得点及び個人競技の得点（4種目4演技×1/4）の合計

イ 団体競技について

都道府県ごとに団体を編成し、演技者は5名とする。

ウ 個人競技について

個人競技の演技者として、団体の5名のうちから4名だけが出場できる。

(3) トランポリンの競技方法 ※実施要項の記載文に同じ

ア 競技内容

男女とも成年・少年はそれぞれ共通とし、個人競技で行う。

予選は、第1自由演技と第2自由演技を行い、2つの合計得点により予選順位を決定する。決勝には予選順位の8位までの選手が進出できる。

決勝は自由演技を1回行い、成績順位は決勝の自由演技得点によって決定する。

イ 第1自由演技について

演技得点（Eスコア）＋跳躍時間点（Tスコア）＋移動減点（Hスコア）の3つの合計が第1自由演技得点となる。

【特別要求】

演技は10種目の異なった種目で構成し、「前方の270度以上の宙返り」と「後方の270度以上の宙返り」をそれぞれ1回以上行わなければならない。これらの要求種目が欠如した場合は、合計点から2.0の減点がなされる。

(注)「よつんばい落ち」と「膝落ち」は実施種目には認められず、これを実施した時点で演技は中断となる。

ウ 第2自由演技及び決勝自由演技について

10種目を自由に構成し、演技得点（Eスコア）＋難度点（Dスコア）＋跳躍時間点（Tスコア）＋移動減点（Hスコア）の4つの合計が第2自由演技得点となる。

また、決勝自由演技も同様、10種目を自由に構成し、4つの項目の合計が決勝の得点となる。

エ 器具

国際体操連盟公認トランポリン器具2台からの選択制とする。器具周辺には、主催者側で2名のスポッターを配置する。選手の安全を守るという観点から、ダブルスポッター制を義務化とする。チームの監督を含めた2名を各県で準備して対応する。スポッターについて、監督以外の1名が不足する場合は、主催者に依頼の申請を行う。

以上